

Eureka III

六年制通信 No. 18 平成 27 年 10 月 10 (土) 号

Heaven helps those who...

サミュエル・スマイルズの『セルフ・ヘルプ』については何度か話したことがあるように思います。原語では **Self-Help**、著者は **Samuel Smiles** と綴ります。日本では現在『自助論』というタイトルで翻訳が出ています。確か三笠書房でしたか。訳者はもう亡くなりましたが地球物理学者の竹内均博士です。この人は小松左京原作の映画「日本沈没」にも大地震を説明する学者役で出てみえました。

原書の出版は 1859 年で、日本で初めて翻訳されたのは明治 3 年 (1870 年) です。訳者は中村正直、号は敬宇と言ひ、当初『西国立志編』というタイトルで出版されました。この本は当時 100 万部を売り上げたと言われています。この数字わかりますか。当時の日本の人口は約 3000 万人、江戸 (東京) の人口は多くても 150 万人ですから、明治初年におよそ東京にいる男子はほぼ全員が読んだということです。テニヲハのついた漢文みたいな本ですから、当時は男子の読む本だったはずですよ。

野口英世は知っていますね。アメリカで彼はお金がなくて日本に帰れなかったことがあるのですが、その時費用を出してやったのが星^{はじめ}一という人です。ショートショート^の星新一さんのお父さんです。星新一が父のことを書いた本が 2 冊ありまして、『人民は弱し官吏は強し』と『明治・父・アメリカ』ですが、そのどちらかに「父もまた西国立志編を読んでいた」と書いてありました。もちろん野口英世も読んだに違いないと思います。**Self-Help** は当時世界第一の経済および海軍力を持っていたイギリス人を中心に、欧米諸国の約 300 人に及ぶ成功物語が書かれた本です。開国を迎えた日本人が熱中するには最適でした。身分制度が崩れ、自分の人生は自分の努力で決められるのだという発想が明治とともに来たわけですから「よし、俺も」と若者ならば思ったことでしょう。

余談ですが、私はむしろ中村正直の英語力に驚嘆しています。彼は帰国の (イギリスへ留学していました) 寸前に友人から、今イギリスで一番読まれている本だからと原書をプレゼントされるのですが、船旅の間に 3 回は繰り返し、ほとんど暗記するほど読んだという話が残されています。こちらの方が驚きです。私は学生時代、恩師に勧められて古書店で買って、原書は手元にあります。150 年以上も前の英語だということを差し引いても、大変難しい英語です。ですから、江戸時代の末期に生まれた人が、いくら秀才だからといって、あの英語を暗記するくらい読める語学力というのは尋常ではないと思います。そちらの方に私は驚いたのです。

さて話を戻すと、この明治の初めに一世を風靡した **Self-Help** の序論に出てくるのが今回のテーマ 'Heaven helps those who help themselves.' なのです。高校の英語の授業では **those who...**を習うときに教えられるかもしれませんが、スマイルズの言葉なのです。これを「天は自ら助くる者を助く」と訳したのは中村正直です。初めてこの言葉を知ったのは高校か大学の時か忘れましたが、ずいぶん若いときに知ったことは確かです。むろん、著者名も原書にも関心のなかった頃です。しかし、この言葉の意味を知るようになったのはずっと後のことです。

様々な人の成功例を編集しているうちにスマイルズが辿り着いたのがこの言葉です。から、少なくとも一面の真理は必ずあるはずですが、さて、果たして本当に天は自らを助ける者を助けるのだろうか。あるいは天は自ら助ける者だけしか助けないのだろうか。つまり自ら助けることをしなければ天は見放すのだろうか。そもそも自らを助ける者とはどういう人を指しているのだろうか。君たちはどう思いますか。考えてみて下さい。

明治が始まり、開国を迎えた日本人は、何が何でも近代化を成し遂げねばなりません。私は多くの日本人がスマイルズの言葉にすがって近代化に向かう時期を生きたと事実をとて重く感じます。人生を切り開くのは自分の手だと、そう信じて頑張った先人たちに敬意を表します。この言葉を逆に考えてごらん。とても怖いのですよ。「自分以外に頼ることは人間を弱くする」ということなのですから。私たちは、自分でも気づかないうちに、自分を弱くする環境に身を置いてしまいがちです。そのことに気がつかないといけませんね。

では、学習期にある君たちにとって、自助の精神とはどのようなものなのでしょうか。社会に出て仕事を持つ前の段階でも自助の精神は発揮できるのでしょうか。私は、自主自立自学自習がこれにあたりと考えています。これが私の考える自助の精神です。少なくとも中高生にとっては目指すべき姿勢だと思います。君たちなりの理解でいいから、もう一度自主自立自学自習についてよく考えてほしいと思います。

話は変わりますが、今回のノーベル賞では久しぶりに感動しました。物理学賞はニュートリノの質量の発見でした。しかしこれはあまりにも有名で、いずれ必ずノーベル賞を取ると言われていましたので、早かったな、くらいの感想でした。私が感動したのは、医学生理学賞の大村智博士の言葉です。アフリカ奥地、感染すると失明する風土病の特効薬の開発に寄与され、年間 2 億人以上を救ってられました。私は全く知らなかった。博士は、受賞の記者会見でこう述べました。「小さいころから、世のため人のためになるようなことをしなさいと言われ続けて育った。色んな研究がしたかったが、どれが最も人の役に立つかを考えて自分の研究テーマを決めた」。いい言葉ですね。私は、確か自分も父親から同じことを言われたなど、少し顔を赤くしながらテレビを観ていました。また、「実験で 1 回や 2 回失敗したからといって、挫けないでほしい」と、若者へのメッセージで述べられていました。

もし今、スマイルズが生きていたら、大村博士も **Self-Help** の中に取り上げたことでしょうかね。